

[原著論文]

看護学科における推薦入学者の大学入学前課題学習 6 ヶ月後の学習への動機づけ
—一般入学者との比較検討—

石山香織, 新谷恵子, 渋谷優子, 荒木玲子, 栗原弥生, 阿部勝子

キーワード: 学習への動機づけ, 入学前課題学習, 看護大学生, 推薦入学

Learning Motivation of Nursing School Students Admitted on
Recommendation at Six Months after Pre-entrance Assignments Compared
with Students who Entered through General Admissions

Kaori Ishiyama, Keiko Shintani, Masako Shibuya, Reiko Araki,
Yayoi Kurihara, and Katsuko Abe

Abstract

In the present study, the learning motivation at six months after pre-entrance assignments of 36 students admitted to nursing school A on recommendation was compared to that of 41 students who entered through general admissions and were not given assignments. A survey was conducted using an originally developed 15-item questionnaire. Findings showed that general admission students had a comparatively higher learning motivation for three of the questionnaire items; however, there was no significant difference for any of the other items, or in the total scores between the study groups. We assumed that general admission students tended to study more on their own initiative than students admitted on recommendation, and that this tendency would thereby affect the students' learning motivation. In a previous study, researchers studied learning motivation by analyzing the college preparation book reports written by students admitted on recommendation. Although students may be motivated to some extent by these assignments, we surmise that their learning motivation may not be maintained. Thus, we conclude that educators should aim to continuously intervene with the goal of maintaining students' learning motivation, even after college preparation assignments.

Keyword : learning motivation, pre-college assignment, nursing college student,
admission on recommendation

新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科

[連絡先] 石山 香織
新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科
〒950-3198 新潟市北区鳥見町1398番地
TEL・FAX : 025-257-4552
E-mail : ishiyama@nuhw.ac.jp

要旨

本研究では、A大学看護学科において入学前課題学習を実施した推薦入学者36名と実施しなかった一般入学者41名を対象として、推薦入学者の入学前課題学習6ヶ月後の学習への動機づけの程度を明らかにすることを目的とした。研究者らが独自に作成した15項目からなる質問紙を用いて調査した。その結果、3項目については一般入学者の方が学習への動機づけが高く、その他の項目および総得点には有意差がみられなかった。学習状況から一般入学者の方が推薦入学者と比較して自発的に学習する傾向にあることが推測され、この傾向が学習への動機づけに影響していると考えられた。研究者らが行った先行研究では、入学前課題学習を実施した推薦入学者のレポートから学習への動機づけの具体的内容が見出されていることから、推薦入学者に学習への動機づけがないとはいえず、それが維持されていないことが推測された。したがって、入学前課題学習後も学習への動機づけを維持するために継続した介入の必要性が示唆された。

I はじめに

文部科学省では現在推薦入学の上限枠を四年制大学では定員の50%をめやすにする旨を通知しており¹⁾、2006年度には国公私立大学の97.0%が推薦入試を採用しており²⁾、推薦入試は全国的に行われている。

ところが、推薦入試合格者にとって合格から大学入学までの期間は約4ヶ月であり、この期間67%の学生が学習を行わず³⁾、大学入学以前での学習意欲の低下が指摘されている⁴⁾。そこで、学習への動機づけを高めるべく各教育機関で入学前にさまざまな取り組みが行われている^{5) 6) 7)}。この取り組みのなかでも、入学前に推薦図書に対する感想文を課すという入学前課題学習はほぼ全員がこれからの学習に役立ったという看護系大学の調査結果⁸⁾に着目し、研究者らは先行研究において看護学科推薦入学決定者に対する同様の入学前課題学習による感想文を内容分析した結果、具体的な学習への動機づけの内容が抽出された⁹⁾。これらの学習への動機づけは推薦図書の内容を顕著に受けた内容であったことから、入学前課題学習によって新たな学習への動機づけが喚起されたと考えられた。また、入学前課題は看護学に特化した内容ではなかったものの、看護学の探求といった学習への動機づけの具体的内容もみられたことから、入学前課題学習によってすでに持っている学習への動機づけが強化されることが示唆された。

推薦入学制度を検討するために入学後の成績を一般入学者と比較している調査では、推薦入学者の成績の方がよいという報告がなされている^{10) 11)}。このことから、推薦入学者の方が入学後学習への動機づけが高いことが推

測される。ところが、昨今大学生の意欲減退傾向が指摘されている¹²⁾。

前述のように、入学前課題学習によって看護学科における推薦入学者の学習への動機づけが喚起あるいは強化されたと考えられるものの、この後の推薦入学者の学習への動機づけの程度は明らかではない。したがって本研究では、入学前課題学習を実施した推薦入学者と実施しなかった一般入学者の学習への動機づけを比較することにより、看護学科における推薦入学者の入学前課題学習実施後の学習支援のあり方を検討する。

II 用語の定義

入学前課題学習：推薦入試合格後に提示された推薦図書を読み、読書後の感想、これからの自分の興味、関心について入学前までにレポートにまとめること。

学習への動機づけ：学習活動は決して学力向上の目的や学校での学習といった文脈にのみ依存するわけではなく、特に青年期以降の学習においては学習者の生き方そのものによって多様に意味づけや価値づけがされている¹³⁾ことから、本研究では学習を学習活動全般さらには生活全般にまで範囲を拡張し、学習を広い視点で捉え、学習への動機づけを「学習への興味および、学習活動全般に対する意欲」と定義する。

III 研究方法

1 調査対象

対象者は入学前課題学習を実施したA大学看護学科2006年度推薦入学者40名のうち本研究への参加に対する同意の得られた者とした。さらに、入学前課題学習を実施しなかった一般入学者48名のうち本研究に対する同意の得られた者を比較対照群とした。

2 調査期間と調査方法

2006年10月に研究参加の同意の得られた者に対し授業終了時に集合質問紙調査を実施した。

3 質問項目

学習への動機づけに関する既存の尺度^{14) 15)}は、動機づけの内面化の程度や内発的あるいは外発的傾向の測定を重視した測定用具であり、その動機づけがどちらの傾向であったとしても学習への動機づけ自体の程度を測定する用具はない。そこで、舟島¹⁶⁾の看護教育学における測定用具の開発を参考にし、研究者らが先行研究⁷⁾で明らかにした学習への動機づけの具体的内容である20サブカテゴリ個々を網羅するよう質問項目の作成を試みた。20サブカテゴリは、分析者の推論を一切加えず、対象者の生の声を反映する特徴をもつBerelson, B.の内容分析¹⁸⁾の

手法を用いて抽出したため、推薦図書の内容を顕著に反映する結果となった。そのため、これらの結果をそのまま質問項目として用いると入学前課題学習を実施していない一般入学者の学習への動機づけの正確な測定は困難であると考えられたため、推薦図書の具体的内容やそれらに影響された具体的内容に関することは一般的に捉えられるような言葉に変換した。また、入学前課題学習を実施したか否かにかかわらず、すべての回答者が質問項目を正確に解釈できるような文章表現に留意した。20サブカテゴリ個々に関して質問項目の作成を試みた後、重複や近似した質問項目は1つの項目にまとめ、最終的に合計15質問項目を作成した。15質問項目は、類似した項目が連続するように配置した。尺度タイプには5段階のリッカート法を使用し、「非常に思う」、「やや思う」、「どちらともいえない」、「あまり思わない」、「全然思わない」により回答を求めた。質問の得点が高いほど学習への動機づけが強いことを表す。作成した15質問項目の内容的妥当性の確保のために、看護教育学研究者2名との専門家会議を経て、医療系大学生6名を対象にパイロットスタディを行った。

他に、対象者の特性に関する質問項目として「年齢」、「性別」、「最終学歴」、「受験した入学試験の種類（推薦入試、一般入試）」、「入試合格から入学前までの学習内容」、「1日の学習時間」、「読書頻度」等を加えて質問紙を構成した。

4 分析方法

推薦入学者と一般入学者の特性の比較には t 検定、 χ^2 検定を用いた。推薦入学者と一般入学者の学習への動機づけの比較には Mann-Whitney の U 検定を用いた。なお、統計解析の分析対象は15質問項目のすべてに回答が得られた者とした。分析には SPSS15.0J for windows

を用い、有意水準を5%未満、有意傾向を10%未満とした。また、内的整合性を検討するために Cronbach α 係数を算出した。

5 倫理的配慮

本研究の実施に際し、対象となる学生には研究の趣旨やプライバシーの保持の厳守、研究目的以外には使用しないこと、研究途中の参加中止の自由および中止の際には何ら不利益が生じ得ないことを口頭及び書面で説明し、同意を文書により得た。

IV 結果

研究参加の同意の得られた81名に質問紙を配布した結果、全員から回答用紙の回収が得られた（回収率：100%）。そのうち質問紙の回答に欠損がある者を除いた77名を分析対象とした（有効回答率：95.1%）。推薦入学者は36名、一般入学者は41名であった。

1 推薦入学者、一般入学者の特性の比較

対象者（n=77名）の特性を表1に示した。対象者は2006年度A大学看護学科入学生で、男性9名（11.7%）、女性68名（88.3%）であり、最終学歴は全員が高等学校卒業であった。平均年齢は、推薦入学者が18.7歳（SD=0.5）、一般入学者が19.0歳（SD=0.7）で、一般入学者が有意に高かった（ $p<0.05$ ）。推薦入学者のうち、入試合格から入学前までに入学前課題学習しか行わなかった者は17名（47.2%）であり、入学前まで何も学習しなかった者は推薦入学者が0名、一般入学者が12名（29.3%）で、一般入学者が有意に多かった（ $p<0.01$ ）。なお、性別、1日の学習時間および読書頻度については有意差が認められなかった。

表1 推薦入学者・一般入学者の特性の比較

項目	全体(n=77)	推薦入学者(n=36)	一般入学者(n=41)	p値
年齢(歳) mean ± SD	18.9 ± 0.7	18.7 ± 0.5	19.0 ± 0.7	*
性別				n.s
男	9 (11.7)	3 (8.3)	6 (14.6)	
女	68 (88.3)	33 (91.7)	35 (85.4)	
合格から入学前までの学習内容				
入学前課題学習のみ		17 (47.2)	—	
学習せず	12 (15.6)	0 (0)	12 (29.3)	**
1日の学習時間(時間) mean ± SD	1.6 ± 1.8 (有効n=67)	1.5 ± 1.9 (有効n=31)	1.6 ± 1.8 (有効n=36)	n.s
読書頻度	ほとんど、または、まったく読まない	16 (44.4)	18 (43.9)	n.s
	1~2回/月	28 (36.4)	17 (41.5)	
	1~2回/週	14 (18.2)	9 (25.0)	
	毎日	1 (1.3)	0 (0)	1 (2.4)

t 検定, χ^2 検定

n (%)

n.s : non-significant, * : $p<0.05$, ** : $p<0.01$

2 推薦入学者、一般入学者の学習への動機づけの比較

推薦入学者と一般入学者の学習への動機づけ得点の比較を表2に示した。各質問項目における両群の比較では、「3. 将来仕事で関わる人々の心理の理解のための学習をしたいと思いますか」と「8. 大学生活での活動や読書から得ることを将来の仕事に役立てたいと思いますか」の2項目において、一般入学者が有意に高かった ($p<0.05$)。また、「2. 将来めざす職業の専門知識のうち特に興味を持っていて学習したい特定の領域がありま

すか」の項目においては、一般入学者が高い傾向にあった ($p<0.1$)。この3項目以外の各項目および総得点において両群に有意差はみられなかった。

3 質問項目の内的整合性の検討

測定用具が内的整合性を確保しているかどうかは、一般にCronbach α 係数0.7以上を基準に判断する¹⁹⁾。今回作成した質問項目全体のCronbach α 係数は0.843であり、内的整合性を確保できたと考えられる。

表2 推薦入学者、一般入学者の学習への動機づけ得点の比較

質問項目	推薦入学者 (n=36)	一般入学者 (n=41)	p 値
1 将来めざす職業の専門知識を広く学びたいと思いますか	5 (3 - 5)	5 (4 - 5)	n.s
2 将来めざす職業の専門知識のうち特に興味を持っていて学習したい特定の領域がありますか	4 (2 - 5)	4 (2 - 5)	†
3 将来仕事で関わる人々の心理の理解のための学習をしたいと思いますか	4 (2 - 5)	5 (3 - 5)	*
4 大学の演習・実習で、将来めざす職業の実践に役立つ技術を身につけたいと思いますか	5 (4 - 5)	5 (3 - 5)	n.s
5 将来めざす職業に関係する内容を学びたいと思いますか	5 (4 - 5)	5 (2 - 5)	n.s
6 将来めざす職業に就くにあたり、人の気持ちを理解する能力を養っていききたいと思いますか	5 (3 - 5)	5 (4 - 5)	n.s
7 将来めざす職業に必要とされる態度を身につけたいと思いますか	5 (4 - 5)	5 (3 - 5)	n.s
8 大学生活での活動や読書から得ることを将来の仕事に役立てたいと思いますか	4 (2 - 5)	5 (3 - 5)	*
9 将来仕事で関わる人に応じた働きかけ・対応の仕方を学びたいと思いますか	5 (2 - 5)	5 (2 - 5)	n.s
10 日頃より読書によって興味を持ったことに関して、さらに自分で深く調べたいと思いますか	3 (2 - 5)	3 (1 - 5)	n.s
11 本を読むことによって豊富な知識を得たいと思いますか	4 (1 - 5)	4 (1 - 5)	n.s
12 人間的に成長するために本を読みたいと思いますか	3 (1 - 5)	4 (1 - 5)	n.s
13 本を読むことによって常に自分の精神面を強化していききたいと思いますか	3 (1 - 5)	4 (1 - 5)	n.s
14 将来仕事で関わる人々との円滑な交流のためにコミュニケーション能力を養いたいと思いますか	5 (3 - 5)	5 (3 - 5)	n.s
15 様々な活動、体験によってさらに見聞を広げたいと思いますか	5 (3 - 5)	5 (3 - 5)	n.s
総得点	63 (50 - 75)	66 (49 - 75)	n.s

median(min-max)

Mann-Whitney U検定, n.s : non-significant, * : $p<0.05$, † : $p<0.1$

V 考察

本研究では独自に作成した質問紙にて入学前課題学習を実施した推薦入学者と実施しなかった一般入学者の学習への動機づけを比較した。総得点と12項目に関しては有意差がみられず、3項目に関しては入学前課題学習を実施しなかった一般入学者の方が学習への動機づけが高い結果が得られた。この結果を先行研究や対象者の特性、調査実施時期等の観点から以下に考察し、学習への動機づけ向上に有効な入学前課題学習実施後の学習支援のあり方について検討する。

今回の調査では、両群の学習への動機づけに有意差は認められなかった。しかし、研究者らが本研究に先立ち入学前課題学習のレポートの内容分析を行った研究²⁰⁾では、学習への動機づけの一部は推薦図書の内容を顕著に受けており、推薦図書の読書によりそれまで持っていた知識がくつがえされたことによって興味をもたらし、学習への動機づけが喚起されていることが窺えた。このように入学前課題学習を実施した推薦入学者は学習への動機づけが喚起されたにもかかわらず、実施しなかった一般入学者と有意差がないということは、その喚起された動機づけが維持されていないということが推測される。高田は、動機づけは学習活動において必要不可欠な条件であるとし、その機能として「喚起的機能」と「維持し方向づける機能」の2つを挙げている²¹⁾。動機づけは喚起されたからといって、それが必ずしも維持、持続されるとは限らない。つまり、後者の「維持し方向づける機能」が重要となる。本吉は、その折々に与えられた他者の異なる意見や指導者の方向性の明示、具体的な教材に刺激を受けることによって、喚起された学習への動機づけが維持できるという結果を示している²²⁾。今回入学前課題学習を実施した推薦入学者には課題学習を行った後に、この課題学習に関して他者とディスカッションしたり、提出されたレポートに関して教員と面接するような機会を設けていない。したがって、入学前課題学習によって学習への動機づけが喚起されたにもかかわらず、このような動機づけを維持させるような働きかけ、機会が与えられなかったことも一般入学者との比較において有意差を認めなかった原因の1つである可能性が考えられる。

また、対象者の特性の結果が示すように、入学前までに何も学習しなかった者は、推薦入学者が0名、一般入学者が12名(29.3%)で、一般入学者が有意に多かった。この結果だけでは一般入学者は自発的に学習しない傾向があるような印象を受ける。しかし、推薦入学者には入学前までに学習しなかった者がいないとはいえ、入学前までに課題学習しか行わなかったものが17名(47.2%)いたことを鑑みると、推薦入学者は入学前に課題学習を与

えられなければ約半数の者は学習しなかった可能性が推測される。これを考慮すると、入学前課題学習を与えられなかった一般入学者は入学前まで学習しなかった者は29.3%であり、一般入学者の方が課題を与えられなくとも自発的に学習する傾向が高いことが推測される。よって、もともと自発的に学習する傾向があると考えられる一般入学者の方が学習への動機づけが高かったものと考えられる。このように自発的に学習する傾向や学習への動機づけの程度が一般入学者と推薦入学者とでは根本的に異なっている可能性がある。

さらに、本研究は入学前課題学習実施後6ヶ月経過した時点での調査であり、入学前課題学習実施直後には調査を行っていない。このように、入学前課題学習実施直後の学習への動機づけの程度が明確でないことはさることながら、入学前課題学習実施前の動機づけの程度も明らかでないことから一概にはいえないが、入学前課題学習実施6ヶ月後にはすでに学習への動機づけが維持されていないということが推測される。

したがって、以上の結果・考察から、推薦入学者の学習への動機づけ向上に有効な入学前課題学習実施後の学習支援のあり方として、学生の興味を喚起するために既存の知識に揺らぎを与えるような内容の課題(推薦図書)の提示の必要性に加え、課題学習後も喚起された学習への動機づけを維持するために入学前課題学習を実施した他の学生や教員とディスカッションやプレゼンテーションする機会を設けるなど、入学後も継続した介入の必要性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました対象者の皆様に心から感謝申し上げます。なお、本研究は平成18年度新潟医療福祉大学研究奨励金(教育研究費)を受けて実施し、一部を第27回日本看護科学学会学術集會にて発表した。

引用文献

- 1) 文部科学省高等教育局長：平成12年度大学入学者選抜実施要項，文部科学省高等教育局長通知，第178号，1999.
- 2) 文部科学省：平成18年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要，http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/09/06090809.htm，2006年9月12日
- 3) 三吉友美子，足立はるゑ，大西文子ら：入学前教育の試み－推薦入学予定者への入学前課題の実施と評価－，看護教育，46：896-900，2005.
- 4) 宇都宮登雄，藤本哲男，角田和巳：推薦入試合格者を対象とした在宅型学習支援システムの構築，特別

- 教育・研究報告集（芝浦工業大学総合企画部），23-26，2003.
- 5) 前掲誌3)
- 6) 前掲誌4)
- 7) 中山かおり，内藤和美，高木タカ子：1日野外生活体験学習（デイキャンプ）の看護学導入学習としての有効性の検討，群馬パース学園短期大学紀要，6（2）：41-54，2004.
- 8) 前掲誌3)
- 9) 石山香織，渋谷優子，新谷恵子ら：看護大学における推薦入学決定者の入学前課題学習による学習への動機づけ，日本看護学教育学会誌，18（2）：23-30，2008.
- 10) 景山甚郷，太田武夫，山田一朗：推薦入試制度の検討，岡山大学医療技術短期大学部紀要，9：59-64，1998.
- 11) 原田規章，中本稔：医学部における入学者選抜方法と入学後の経過について—山口大学における追跡調査から—，医学教育，28（1）：35-40，1997.
- 12) 鉄島清毅：大学生のアパシー傾向に関する研究—関連する諸要因の検討—，教育心理学研究，41（2）：200-208，1993.
- 13) 伊田勝憲：学習動機づけの統合的理解に向けて—課題価値研究の意義と今後の方向性—，名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学，49：65-76，2002.
- 14) Deci, E. L., Ryan, R. M. : Intrinsic Motivation and Self-determination in Human Behavior. Plenum Press. 1985.
- 15) 市川伸一：現代心理学入門3 学習と教育の心理学. 第1版. 岩波書店. 東京. 1996.
- 16) 舟島なをみ：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程. 第1版. 医学書院. 東京. 118-130, 2002.
- 17) 前掲誌9)
- 18) Berelson, B. (稲葉三千男, 金圭換訳) : 内容分析. みすず書房. 東京. 1957.
- 19) 堀洋道：心理測定尺度集Ⅲ. 第1版. サイエンス社. 東京. 402, 2001.
- 20) 前掲誌9)
- 21) 高田喜久司：学習指導の理論と実践. 樹村房. 東京. 9-10, 1995.
- 22) 本吉美也子：看護学生の学習の取り組みに影響する要因の研究，札幌医科大学保健医療学部紀要，7：55-61，2004.